資料２－６

平成２３年度のプログラムについて

【ポイント】

○　「国際社会に対応できる青年の人材育成」と「青年の友好・相互理解」という事業目的を効果的に達成し、参加青年の交流と社会貢献が事業参加後も継続･発展していくよう､プログラムを構築。具体的には、事業を通じて、リーダーシップ強化、国際的視野、コミュニケーション力、積極性・行動力、日本人としてのアイデンティティの確立などを目指している。

○　事業ごとに、**ディスカッション、課題別施設訪問、表敬訪問、自主活動、ホームステイ、地方プログラム、事後活動セッション等を組み合わせ**ている。　（それぞれの意義は次ページ）

○　地方プログラムを実施。**地方の青年も国際交流を経験できる機会**。プログラム構築を経験し、青年の育成にもつながる。

○　合宿形式による**事前研修、直前・出航前研修、事後研修**を行い、事業の効果を最大化。

【添付資料：各事業の平成２３年度のプログラム】

○　東南アジア青年の船事業　・・・・・・・・・・・・・・　１
○　世界青年の船事業　・・・・・・・・・・・・・・　３
○　日本・中国青年親善交流事業（派遣・招へい）　・・・・・　５
○　日本・韓国青年親善交流事業（派遣・招へい）　・・・・　１０
○　国際青年育成交流事業　（派遣）　・・・・・・・・・　１６
（招へい）　・・・・・・・・・　２７
○　青年社会活動コア・リーダー育成プログラム
（派遣・招へい）・・・　３２

プログラムの各項目の意義

ディスカッション

○　環境や教育など、国際的な共通課題をテーマとし、学びを深める。特に、各テーマについての各国での取組事例、考え方を知り、さらにその背景にある文化や考えの違いを学ぶ。
○　全体テーマである「青年の社会参加」の意義・必要性を考える。
○　議論し、結論をまとめ、発表を行うことで、コミュニケーション能力、多様な意見をまとめる能力、プレゼンテーション能力を向上。
○　なお、ディスカッションのテーマごとにアドバイザー等を付けており、事業参加前から参加青年は事前準備を行っている。
○　航空機事業では、現地青年を交え、合宿型で行っている。

課題別施設訪問

○　ディスカッションのテーマに沿った施設を訪問する。訪問先は、アドバイザー等の意見を踏まえて選定し、訪問先にも事業の趣旨と訪問目的を説明し、具体的視察内容を調整。また、一方的説明に終わらず、質疑応答の時間を取るようにしている。

表敬訪問

○　訪問先政府の元首級や大臣等を表敬訪問する。
○　国の代表青年としての意識を持つとともに、公式の場での振る舞いを学ぶ。

自主活動

○　船内で青年が自ら企画し、実施する活動。青年の企画・運営力を高めるとともに、自らの行動で船内という社会をよくできるという成功体験を積む。

ホームステイ

○　訪問国の実際の生活文化に触れるとともに、ホストファミリーと幅広いテーマについて、じっくりと話をすることができる。参加青年に対する心のこもった「もてなし」の場にもなる。
○　ホストファミリーにとっても、国際交流の機会。

地方プログラム（招へい事業）

○　東京のみならず、日本の多様な魅力・文化を外国青年に知ってもらう。
○　地方青年が外国青年と交流することができる。（２６の地方で実施）
○　地方青年が企画・運営するので、企画力・運営力と成功体験を得られる。

事後活動セッション

○　参加青年が事業終了後の活動について、ロールモデルを知り、具体的に考え、議論し、行動計画を作る場。